

■ 直面する課題

- ◆ 製品の品質はそこそこ良いレベルにあるものの、残念な品質問題が絶えないため、従来のやり方を抜本的に見直したい
- ◆ いろいろと再発防止の仕組みや品質造り込みの仕組みを作っているが、それをすり抜けるように品質問題が起きている、決め手となる手法がない
- ◆ 品質の良さが製品の購入動機になるレベルまで品質の水準を上げたい
- ◆ 全員が品質意識を持ち改善し続ける風土を作りたい

■ 研修の狙い・目的

未然防止とは「リスクを見えるようにして問題を見つける（気付く）」ことです。本研修では、品質問題の未然防止のための基本的な考え方やDRBFM（Design Review Based on Failure Mode）手法を学びます。階層別に3つのコースを設け、DRBFMを導入されている企業でも、導入されていない企業でも効果的で実践的な研修を実施できます。

- ◆ 初級コース
DRBFMの基本的な考え方の理解と手法の習得をします
- ◆ 中級コース
自職場の製品にDRBFMを効果的に活用出来る技術者を育てます
- ◆ 上級コース
専門技術者がレビューの技術を習得し、DRBFMのレビューアを育てます

■ 研修の特長

- ◆ 研修全体
DRBFMの創始者 吉村達彦 が、未然防止の考え方を徹底解説します。
導入レベルに合わせ、3つのコースを組み合わせることにより、社内でのDRBFM活用の展開がスムーズに行えます。
各社の要求に合わせてプログラムをカスタマイズすることもできます。
- ◆ 初級コース
変更前後を比較出来る教材でDRBFMの神髄を理解できます。
演習では設計者とレビューアの両方の立場を体験でき、DRの勘所を掴めます。
- ◆ 中級・上級コース
職場実践とフォローアップにより、現状のDRのやり方を点検してレベルアップ狙います。
職場実践結果を共有してDRのレベルアップを狙います。
オプションとして、DRBTR（Design Review Based on Test Result）、DRBDP（Design Review Between Design and Production）を習得することが可能です。

■ 研修の対象

研究開発関連部門（研究、開発、設計、品質保証、生産技術）の管理職・リーダーおよび担当者

■ 研修の期間

- ◆ 初級コース 1日
- ◆ 中級・上級コース 1日＋半日（間に約2カ月間の職場での実践を含みます）

■ コースにおける階層別研修の位置づけ

コース		狙い	達成レベル
DRBFM	初級コース ・DRBFM未経験者	DRBFMの基本的な考え方の理解と手法の習得をします	自分の設計したものに関してDRBFMができる <ul style="list-style-type: none"> 品質問題の未然防止のための基本的な考え方を理解する DRBFM手法のポイントを習得する
	中級コース ・DRBFMを職場で実践している方	自職場の製品にDRBFMをうまく活用出来るような技術者を育てます	<ul style="list-style-type: none"> 自職場でDRBFMを効果的に活用できる 自職場のDRBFM活用のレベルを上げる DRBTR・DRBDP手法の考え方とポイントを習得する
	上級コース ・レビューアとして育てたい専門技術者	専門技術者がレビューの技術を習得し、DRBFMのレビューアを育てます	<ul style="list-style-type: none"> 自職場でDRBFMのレビューをリードすることができる
オプション	DRBTR・DRBDPコース	自職場の製品にDRBTR・DRBDPをうまく活用出来るような技術者を育てます	<ul style="list-style-type: none"> DRBTR・DRBDP手法を活用できる 自職場のDRBTR・DRBDP活用のレベルを上げる
	インストラクター養成コース	DRBFM・DRBTR・DRBDP手法を社内で開催できるようにする	<ul style="list-style-type: none"> DRBFM・DRBTR・DRBDP手法を社内で開催する技法を習得する

※ DRBTR(Design Review Based on Test Result)
DRBDP(Design Review Between Design and Production)

■ 初級コースの概要

(1)実施時間

9:00～17:00 1日コース

(2)参加人数

20～40名程度 /回

(3)研修のポイントについて

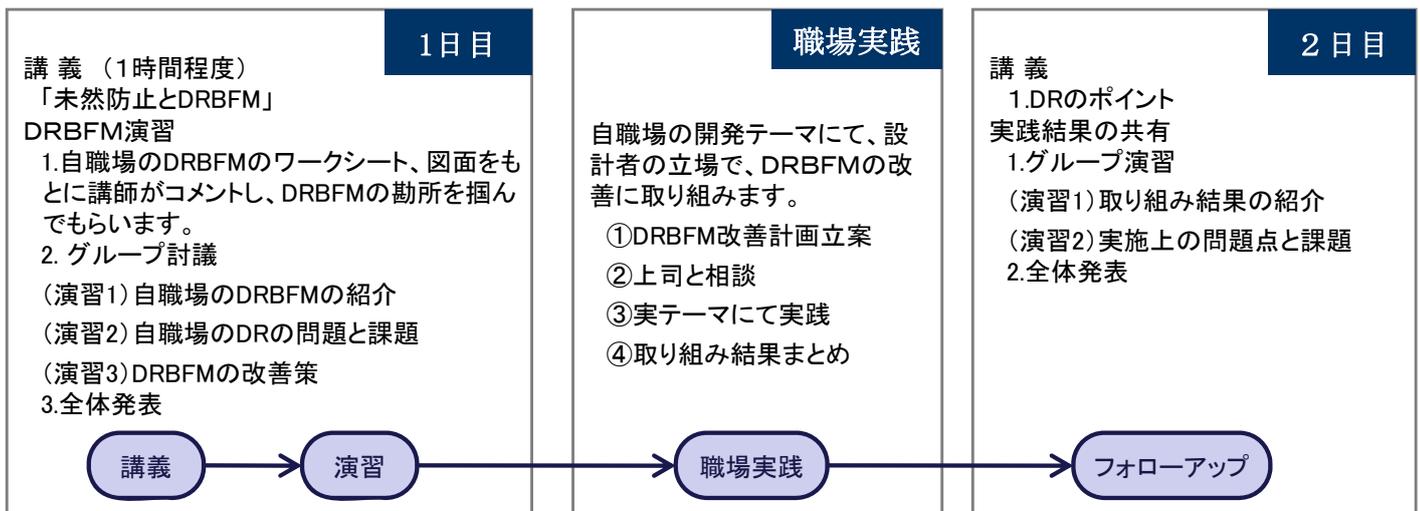
- ・4～5人でグループ演習を行い、当社演習教材にてDRBFMを体験します。
- ・開発前後を現物で比較できる教材のため、「変更点の確認」から演習することができ、DRBFMで重要な変更点・変化点についての理解が深まります。
- ・共通の演習教材を使用するため、題材によるバラツキがなく、DRBFMの重要なポイントを習得することが出来ます。
- ・貴社のDRBFM活用の目的や事例紹介を追加すると意識が高まり効果的です。

(4)講座内容

午前	講義 1. 未然防止の考え方 2. 未然防止とDRBFMの実際 3. DRBFMの進め方 ～DRBFMマニュアル～
午後	DRBFM演習 1. 演習 (演習1) 変更点の確認 (演習2) DRBFMワークシートの記入 (演習3) レビューの実施 2. 演習結果の振り返り 3. 全体発表

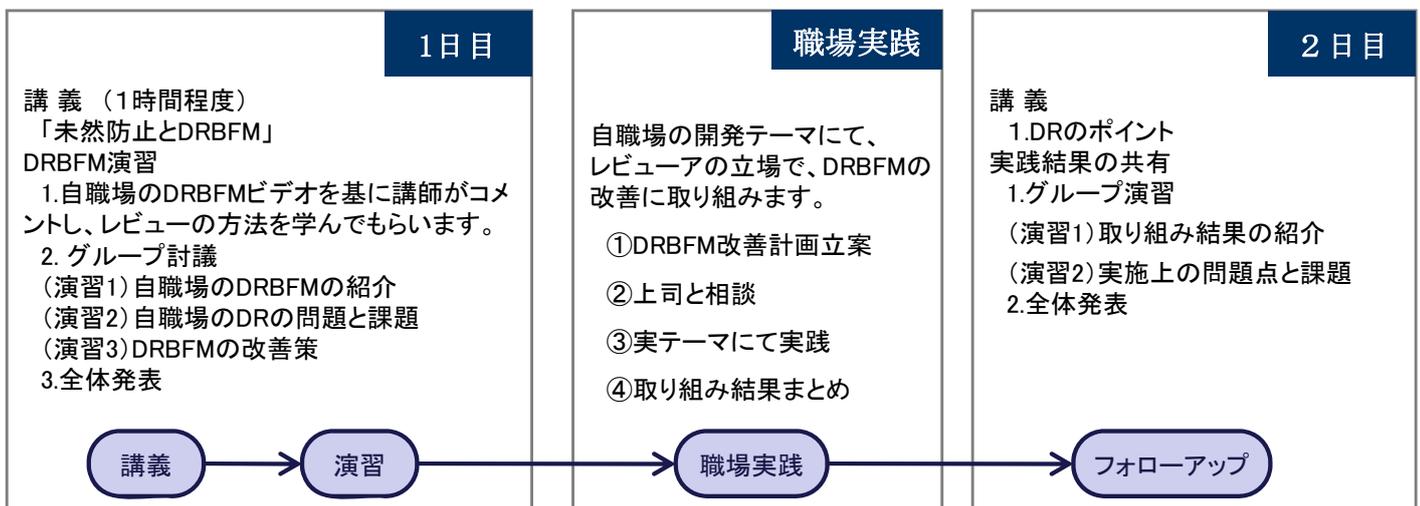
■ 中級コースの概要

- | | |
|--|---|
| <p>(1)実施時間
1日目：1日 9:00～17:00
2日目：半日(3時間程度)</p> <p>(2)参加人数
10～20名程度 /回</p> <p>(3)研修内容</p> | <p>(4)研修のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> • 自職場のDRBFMを題材にし、講師がコメントし、DRBFMの勘所をつかんでもらいます。 • 職場での実践は、実開発テーマで行います。 • 職場での実践にあたり、職場トレーナーまたは事務局でのフォローアップ(OJT)が必須です。 |
|--|---|



■ 上級コースの概要

- | | |
|--|--|
| <p>(1)実施時間
1日目：1日 9:00～17:00
2日目：半日(3時間程度)</p> <p>(2)参加人数
10～20名程度 /回</p> <p>(3)研修内容</p> | <p>(4)研修のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> • 自職場のDRBFMをビデオに撮影してもらい、映像に対して講師がコメントし、DRBFMのレビューの勘所を掴んでもらいます。 • 職場での実践は、実開発テーマで行います。 • 職場での実践にあたり、職場トレーナーまたは事務局でのフォローアップ(OJT)が必須です。 |
|--|--|



研修プラン

対象	0ヶ月目	1カ月目	2カ月目	3カ月目	4カ月目	5カ月目	6カ月目	7カ月目
中堅技術者	研修計画	初級コース		中級コース ※職場実践含む			上級コース ※職場実践含む	
若手技術者		初級コース	初級コース	初級コース	初級コース	初級コース	初級コース	初級コース

※各社に合わせてプログラムのカスタマイズを行います

- 演習の題材を御社の製品に置き換えることも可能です。
- DRの直接指導も要望に応じて行います。
- DRBTR・DRBDPを組み合わせて演習を実施することも可能です。

導入実績

	業種	参加人数	実施内容
A社	自動車	1,200人	3つのコースを実施し、DRBFMのエキスパートを育てる
B社	家電	800人	3つのコースを実施し、DRBFMのエキスパートを育てる 開発プロジェクトメンバーへの直接指導
C社	精密機器	70人	製品開発プロジェクトメンバーが参加し、実践的なDRBFMのトレーニングを実施

GD³センターのご紹介

当センターは、品質問題の未然防止のマネジメントコンセプトであるGD³(GDキューブ)の普及を目指して2008年に発足しました。

国、業界、業種を超え品質のブレークスルーを基軸とした経営革新を目指しています。

<コンサルティングプログラム>

- GD³品質革新プログラム
- 未然防止のためのデザインレビューの実践「DRBFM手法活用研修」
- ミドルマネジャー(部長層)スキルアップ「APAT(All the People, All the Time)マネジメントトレーニング」

国内外先進企業にて導入・活用されています

GD³センター長 吉村 達彦



<略歴>

トヨタ自動車で信頼性向上に取り組む。
九州大学教授を経て、
米国General Motorsにて、
平成19年3月まで信頼性向上の指導に当たる。
現在、国内外先進企業にてGD³、APATの指導中。

<受賞>

昭和50年 自動車技術会賞受賞
平成11年 日本機械学会技術功績賞受賞
平成15年 日経品質管理文献賞受賞

<著書>

平成14年「トヨタ式未然防止手法・GD³」